

1. 調査報告概要表

作成日 平成 22年 4月11日

【評価実施概要】

事業所番号	1072900804
法人名	医療法人 日望会
事業所名	グループホーム サンホームケアホームはな花
所在地	群馬県みどり市笠懸町阿佐美 499-1 (電話) 0277-30-8122

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成22年 2月 4日

【情報提供票より】(22年 2月 18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 1月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,400 円			

(4) 利用者の概要(1月 18日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	6名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.6歳	最低	80歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みどり病院 サンホーム笠懸 小森谷歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの大きなテーマとして「ふれあい」を掲げており、管理者をはじめ職員は地域とのふれあい、家族とのふれあいを基本にした日々の対応に取り組んでいる。ホームの行事に出来るだけ多くの家族の参加を、年末年始には無理のない範囲で家族と一緒に過ごす時間を持って欲しい等をお願いしたり、又、地域との交流にも積極的に取り組む姿勢が見受けられる。運営推進会議を行政・家族・地域・事業者等の関係者が一堂に会して意見交換をする大事な機会と捉え、会議での話し合いをサービスの向上に反映させる努力をしている。職員は利用者の出来ること、したいことを受け止めて個別性のある対応に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題であった市町村との連携については、昨年より運営推進会議に市の担当者の参加があり、これまで以上に行き来する機会が多くなった。介護計画の見直しは改善に取り組んだが、栄養摂取や水分確保の支援については改善に向けた努力を行っている状況である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は評価内容を職員に知らせ、職員の意見を管理者とケアマネジャーがまとめて作成したものである。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議には昨年より市の担当者の参加があり、定期的に開催している。ホームからは利用者の様子や行事の報告・案内、災害時の協力についてのお願いをしている。会議のメインテーマを「ふれあい」としており、家族や近隣住民との交流について意見交換が行われ、参加者からは家族交流会や地域行事への参加等の提案が出されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等の意見・要望・苦情等は気軽に話してもらえるよう、日頃から信頼関係を築く努力をしている。食事の件・部屋の位置・買い物・身体状況が悪化した場合等についての意見があり、職員間で検討して出来ることからサービスに結び付けている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、回覧板や運営推進会議等で地域の情報を知り、地域の行事には出来るだけ参加している。地区の老人会・婦人会主催の「赤城サロン」には利用者・職員が参加しており、サロンは地域の人との触れ合いの場と同時に利用者にとっては楽しみの場にもなっている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間で話し合い、地域の中で安心して生活していくことを盛り込んだ事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新入職員には理念について説明し、その意味を理解してもらっている。日々目に触れるホールやトイレ等に理念を掲示し、職員が自己の対応を振り返る機会としている。ミーティング・カンファレンス・気付きのあった時等に理念を確認し、実践に向けて取り組んでいる。		
。					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、回覧板で地域の情報を知り、まゆ玉作り等の行事に参加している。地区の老人会・婦人会開催のサロン(赤城サロン)が毎月第4金曜日に開催され、利用者も参加して地域の方々と楽しい時間を過ごしている。桐生タイムズ配達人が新聞をホーム内に持ってきてくれるので利用者との交流の機会にもなっている。		
たものである					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は内容を職員に知らせ、職員の意見を管理者とケアマネージャーがまとめて作成したものである。外部評価の結果を踏まえて話し合いを行い改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には昨年より市の担当者の参加があり、定期的開催している。ホームからは利用者の様子や行事の報告・案内を行っている、会議のメインテーマを「ふれあい」としており、家族や近隣住民との交流や災害時の協力について意見交換が行われている。参加者から地域行事の参加へのお誘いや家族からは家族交流会についての提案が出されている。家族全員に開催日を連絡し、参加した家族と一緒にその家族の利用者も参加している。議事録は全家族に送っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年より運営推進会議に市の担当者の参加があり、これまでの市主催の会議等での連携や事故報告書の提出や相談事に加えて、市の担当者との交流の機会が多くなった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「はな花だより」を2ヶ月ごとに発行したり、家族の面会時や電話等で利用者の様子や健康状態等を報告して、家族との関係を深める努力を行っている。家族来訪時にはケアプラン・生活の記録・おこずかいの管理状況等を見てもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見や苦情は気軽に話してもらえるよう、日頃から信頼関係を築く努力をしている。苦情箱の設置もしているが直接意見等を伝えていただいている。生活の中での食事の件・部屋の位置・買い物等についての意見があり、職員間で検討してサービスに結び付けている。身体状態が悪化した場合等についても意見交換を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を最小限に抑える努力をしている。新入職員の場合は利用者・家族にきちんと紹介している。利用者へのダメージを防ぐために、入職時には理念を説明し、先輩職員に約1ヶ月は一緒に日勤業務についてもらい、その後夜勤を1～2回、同行指導を受けるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の調整により出来るだけ研修会には参加するようにしており、職員全員が基礎研修を受講している。各研修の受講者はミーティング等で報告、実践に繋いでいる。法人内研修としてインフルエンザや接遇等についての研修が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、連協主催の交換研修・グループホーム大会や東毛ブロックでの研修に参加し、情報交換等によりサービスの質の向上に取り組んでいる。連協には発足当時より加入しており、事例発表も経験している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に見学をしてもらい、ホームの様子や雰囲気を感じていただき利用に繋いでいる。施設や病院等からの入居希望の場合はホームから出向いて、状況を把握したり、馴染みの関係を作るようにしている。入居当初は丁寧に時間をかけて話をしたり一緒に散歩等をして馴染んでもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側される側という垣根を作らず、一つの家族として共に過ごし支えあう関係を大切にしている。昔の生活の様子や調理の仕方等教えてもらう場面や利用者の「ありがとう」の言葉から、感謝する気持ちを気付かされることもある。		h
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での利用者の言動等から意向や希望を把握するように努めている。気持ちをはっきり言う方もいるが、思いをうまく表現出来ない方に対してはその時の表情を見たり、家族や関係者から情報を得て対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を踏まえて、アセスメントやカンファレンス等により本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には毎月モニタリングを行い、3ヶ月に1回の見直しを行っている。状態の変化に伴い、随時、現状に即した見直しを行い新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて受診時の付き添い・日用品等の買い物・入院時の洗濯等の他、図書館に本を借りに行ったり、薬を取りに行ったりと柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。家族の都合により職員が受診に同行する場合は、電話または来訪時に状況をお知らせしている。往診をしてくれるかかりつけ医の家族は月に1度来訪し診察に立ち会っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針については家族・医療機関・事業所間で話し合いを持っており、現段階では看取りは出来ない事になっているが明文化したものは無い。今後も継続的に話し合いを持っていく予定である。	○	事業所としての重度化や終末期に向けた基本的な方針について明文化し、重要事項説明書等に記載、家族等に説明して共通の認識を持つことが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の対応において本人を傷つけないよう、特に言葉かけ等については注意している。入職時には個人情報の取り扱いについて誓約書を交わしている。プライバシー等に関しては法人でリスク・苦情等の会議がもたれており、内容については職員に知らせている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、自室でテレビを見たり新聞を読んだり、ぬり絵をする等利用者の自由な生活を支援している。しかし1日1回は利用者が集まって話をする時間を持つことも大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の給食サービスを利用しているが、月に数回は行事の中で手作り食事を設けたり、寿司等をテイクアウトして食事が楽しいものになるよう配慮している。利用者と職員は同じテーブルで一緒に食事を摂り、食後の片付けやテーブル拭きなども一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月～土までの午前中は入浴が可能となっており、基本的には週に3回の入浴を支援しており、入浴の順番等も考慮している。月～土の午前中は入浴支援をしているので、利用者の希望に合わせての対応も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者各自の生活歴や能力を考慮しながら、掃除、お絞り巻き、新聞を取ってきたり、洗濯ものを干したりたたんだりとホームでの役割をお願いしている。新聞を読んだり、テレビを観たり、飾り物作りや屋内での運動会等の他、初詣・日帰り旅行・外食・ドライブ等楽しみごと・気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くにある防災池までの散歩・外気浴・外食・ドライブ等戸外に出て気分転換やストレス発散の機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、職員の見守りの徹底と利用者の状況を把握することで日中は鍵をかけていない。外に出た時は一緒に散歩をして気分転換を図るように対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年に2回、昼夜を想定して避難訓練を行っている。運営推進会議で地域の方には協力をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量はチェック記録をしている。水分摂取については前回の外部評価で改善項目となっており、会議で話し合い、水分を摂取する機会を多くし、摂取量の記録についても話し合いはしたが徹底されていない。	○	水分の摂取の記録を残すことの大切さを職員は認識しており、そのための話し合いを持っているので、今後は食事の摂取量と一緒に水分の摂取量の記録も徹底することを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高くゆったりとした広いスペースの共有空間には利用者が食事・おしゃべり・新聞を読んだりするテーブルと椅子、テレビを観たり、ゆっくりとくつろげるソファ等が設置されて利用者が思い思いに過ごせるような配慮が見られる。壁面には利用者の作品や行事の写真等が掲示されており、居心地良く日々の生活が送れるような工夫もしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた整理タンス・衣装ケース・ベットや家族の写真・人形・カレンダー・作品集等が飾っており、利用者それぞれが個性あふれる居室を作っている。		